

「中部横断道沿線地域活性化ビジョン」の概要

「個性が輝き、ヒト・モノ・情報が行き交う地域」を目指して

ビジョン策定の経緯

これまでの地域活性化の取り組み

平成 21 年 3 月「中部横断道沿線地域活性化構想」を策定し、地域活性化プロジェクト等を実施
地域を取り巻く環境の変化

構想策定から 7 年が経過する中で、高速道路網の整備が進捗し、リニア中央新幹線の工事が着工される一方で、価値観の多様化、人口減少の進展など社会状況が大きく変化

沿線地域の課題

人口問題の克服と地方創生の取り組み、産業の活性化と雇用機会の確保、多様な地域資源の一層の活用

新たな取り組みの必要性

中部横断自動車道の開通等による沿線地域の強みを生かした観光や産業の振興など、ヒト・モノ・情報が集まる新たな取り組みや体制づくりが必要

中部横断道沿線地域活性化ビジョンの策定

概ね 10 年程度を視野に、県、沿線自治体、関係機関等が、連携・協働した取り組みを進めるための指針としてビジョンを策定

沿線地域：北杜市、韮崎市、甲斐市、昭和町、南アルプス市、中央市、市川三郷町、富士川町、身延町、早川町、南部町の 11 市町

【中部横断自動車道の概要】

供用済み区間 延長：約 8km

国交省施工区間
延長：約 15km
事業中（平成 29 年度開通予定）

基本計画区間 延長：約 34km



IC 名称時点修正実施

* IC・JCT 名は仮称



供用済み区間 延長 約 16km

NEXCO 中日本施工区間
延長：約 10km
事業中（平成 28 年度開通予定）

国交省施工区間
延長：約 28km
事業中（平成 29 年度開通予定）

NEXCO 中日本施工区間
延長：約 21km
事業中（平成 29 年度開通予定）

[双葉 JCT ~ 増穂 IC (平成 18 年供用開始) 整備による効果]

* 県立中央病院や山梨大学付属病院への搬送時間の短縮による救命率の向上

* 平成 24 年 7 月には、静岡と甲府・竜王を結ぶ高速バスの運行開始

* 沿線の昭和町、南アルプス市、中央市では、平成 11 年基準で平成 24 年に従業者数が 25% 増加

* 平成 26 年 7 月には、道の駅「富士川」が整備され、観光・交流の動きが活発化

国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所提供資料、中日本高速道路株式会社作成資料より抜粋

沿線地域の特性

1 変わる沿線地域

(1) 高速道路網の整備による変化

時間距離の短縮

中部横断自動車道の開通により、

- ・2時間交通圏が拡大

起点	整備前	整備後
双葉JCT	佐久IC 約83km	信州中野IC 約152km
	南アルプスIC	
南アルプスIC	清水いはらIC 約75km	浜松いなさIC 約157km
	更埴JCT	

- ・県外主要都市等への所要時間が大幅短縮

軽井沢駅へは			
南部町役場から	225分	140分	85分短縮
清水港へは			
韮崎市役所から	130分	85分	45分短縮
富士山静岡空港へは			
中央市役所から	140分	100分	40分短縮
早川町役場から	125分	90分	35分短縮

日本海～太平洋、東京圏～中京圏をつなぐ
クロスポイントの形成
交通の利便性に優れたヒト・モノ・情報の交流
拠点 地域間ネットワークの構築
高速道路ネットワークによる
多環状ルートの形成
複数のルート選択が可能になるとともに、周遊
性が高まり、利便性が向上

(2) リニア中央新幹線の開業による

飛躍的な時間距離の短縮

道路網とリニア中央新幹線を生かした新たな
高速交通ネットワークの形成

東京駅までの所要時間	中央線	リニア	
身延町役場から	150分	65分	85分短縮
北杜市役所から	130分	60分	70分短縮
甲斐市役所から	120分	50分	70分短縮

2 多様な地域資源

魅力的で多様な地域資源

- ・南アルプスをはじめ、四季折々の良さを感じさせる自然
- ・豊かな森林がもたらすさわやかな空気と清らかな水
- ・街並みや史跡、伝統行事が伝える地域の歴史や文化
- ・気候や風土を生かした農林水産物や特産品
- ・観光客などで賑わう道の駅、歴史ある温泉郷などの交流拠点

沿線地域の将来像

将来像 『個性が輝き、ヒト・モノ・情報が行き交う地域』
を目指す

高速道路網やリニア中央新幹線の開業による時間距離の短縮

+ 魅力ある多様な地域資源の効果的な活用

< 活性化の可能性が拡大 >

観光客の増
加や地域間
交流の拡大

企業等の
進出や販路
の拡大

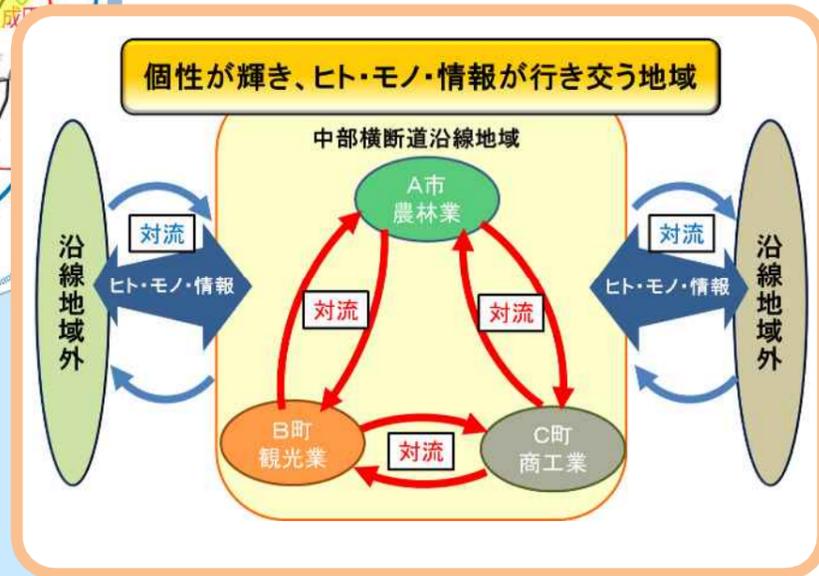
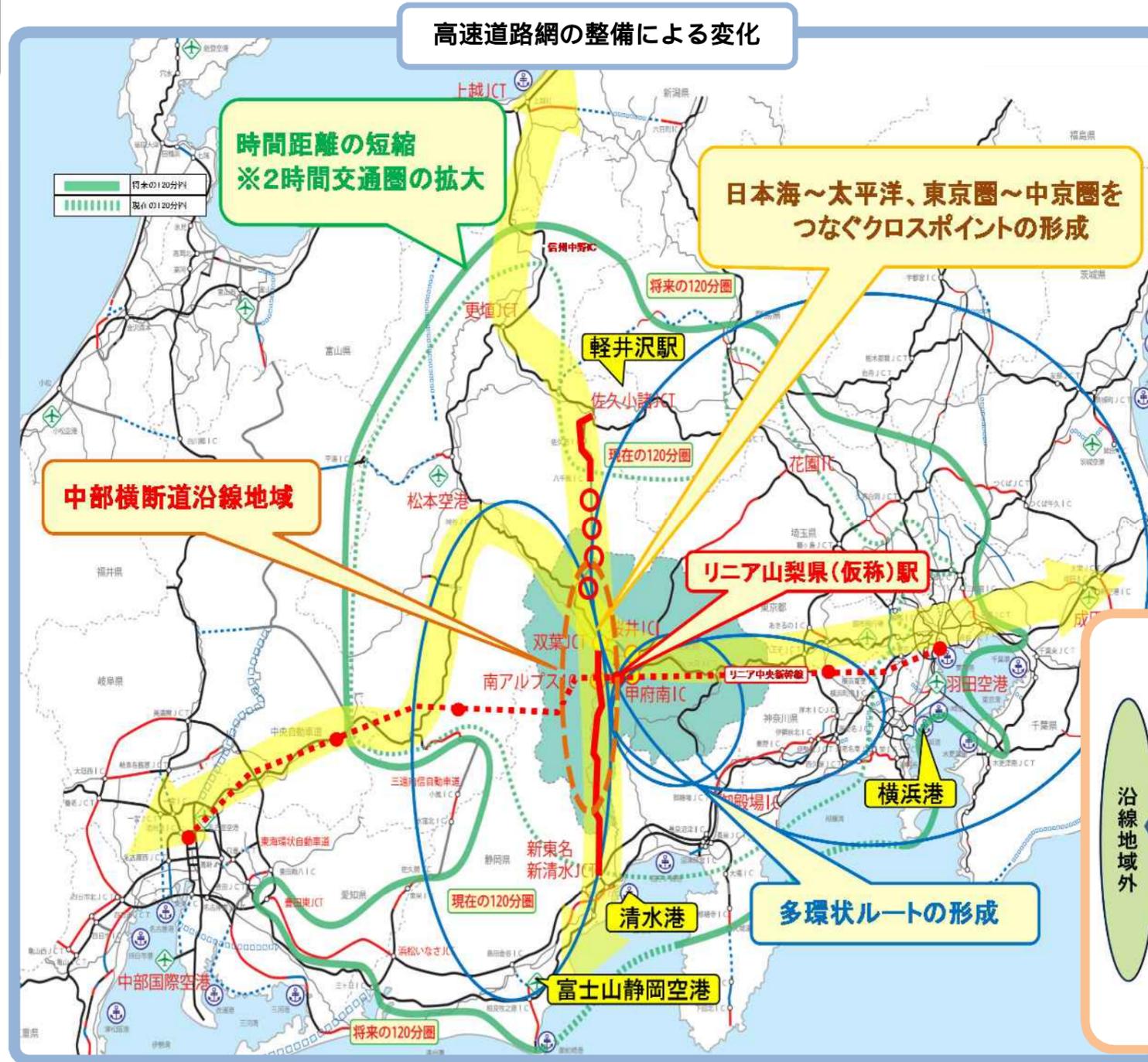
移住・二地域
居住の促進や
若者等の地域
定着

< 対流の促進 >

・個性(地域資源)を磨き、価値を高めていくことで、
活発な動きや流れが生まれる。

・地域の連携・協働の取り組みにより、
地域に活力をもたらす「対流」が起きる。

『生まれた対流を、沿線地域から国内各地域との
大きな対流へとつなげ、更には、世界各地との、
より大きな対流を創造する。』



将来像の実現へ向けた取り組み

1 取り組みの柱

- (1) 交流（観光）拡大
 - ・多様な観光メニューの創出や交流拠点の整備・活用等による観光客誘致
 - ・ICTの活用、表記の多言語化等、受け入れ体制の整備によるインバウンド観光の拡大 等
- (2) 産業振興
 - ・企業の生産拠点や物流拠点の誘致、更には、本社機能の誘致
 - ・農林産物等の戦略的なマーケティングによる国内外の販路の拡大 等
- (3) 定住促進
 - ・地域の魅力や移住情報の積極的な発信等による移住・二地域居住の促進
 - ・多環状ルートへのアクセス性の向上等、生活環境の安全安心の確保による定住の促進 等
- (4) 基盤整備
 - ・中部横断自動車道の全線開通の促進
 - ・地域活性化ICやアクセス道路、周遊観光等に資する道路の整備 等

2 推進方策

(1) 沿線自治体等実施主体の取り組み

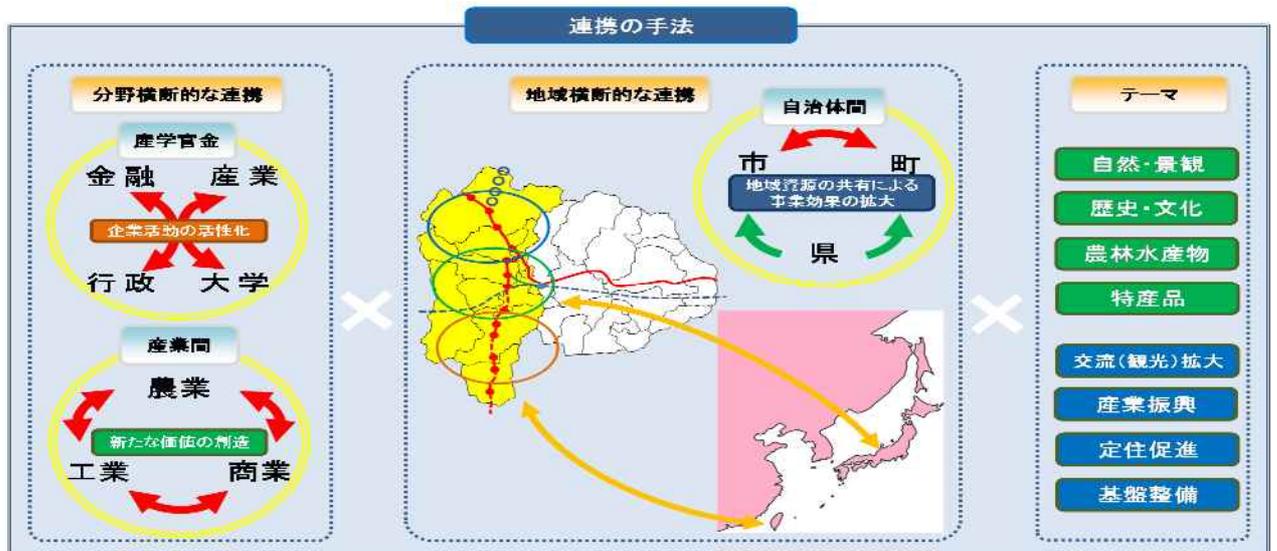
地域内外に存在するシーズの効果的な活用のための連携の促進

地域横断的な連携

- ・取り組みの規模やテーマに応じた沿線地域内外や県外の地域、海外との連携による事業効果の向上

分野横断的な連携

- ・農業と観光、農業・製造業・小売業など、異分野・異業種間の連携による価値の創造
- ・企業や大学等が持つ人材や設備・研究成果と金融機関が持つノウハウ、ネットワーク等の連携による企業活動の活性化
- ・産学官金連携により学生の県内就職率の向上を目指す地域創生推進事業（COC+事業）



(2) 実施主体の取り組みへの支援

中部横断道沿線地域活性化ビジョン推進協議会（仮称）の設置

- ・将来像実現の主体となる沿線自治体等の施策・事業や取り組み状況などの情報交換、沿線地域内外のシーズや連携のノウハウなどの情報提供を行い、取り組みを支援

[構成] 県、沿線自治体、産業界、大学、金融機関など様々な分野の専門家

1 各主体における取り組み状況

沿線地域の将来像の実現の主体となる県、沿線自治体、関係機関等の各主体における現状での取り組みと県部門計画等に基づく県の施策の方向性を、「交流(観光)拡大」、「産業振興」、「定住促進」、「基盤整備」の4本柱ごとに記載

【各主体の取り組み】

- (1) 交流(観光)拡大：56の具体的な取り組み
 - ・ 峡南地域歴史文化ツーリズム振興構想の策定及び推進
 - ・ 新たなユネスコエコパーク登録の推進
 - ・ 赤ワインの丘プロジェクトの推進
 - ・ 道の駅・なんぶ(仮称)の整備 等
 - (2) 産業振興：46の具体的な取り組み
 - ・ 本社機能の移転や事務所・研究開発施設の拡充の推進
 - ・ 物流施設の誘致に係る課題や企業動向等の情報共有
 - ・ 赤坂とまとやブランド米、大塚にんじん、ゆず、あけぼの大豆などの地域農産物のブランド化の推進
 - ・ 雨畑ブラックシリカやジビエ、竹などの地域資源の活用による新商品の開発 等
 - (3) 定住促進：39の具体的な取り組み
 - ・ 空き家バンク等による空き家の利活用
 - ・ 滞在型市民農園の開設・拡充
 - ・ やまなし暮らし支援センターにおける移住情報の提供や移住相談の実施
 - ・ 学卒者の地元定着を図る「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+事業)との連携 等
 - (4) 基盤整備：11の具体的な取り組み
 - ・ 中部横断自動車道の整備推進及び促進
 - ・ 身延山IC、中富IC(地域活性化IC)等の整備
 - ・ 国道300号、県道甲斐早川線等の整備
 - ・ 本県の新たな玄関口となるリニア駅周辺の整備に向けた方針の検討 等
- 具体的な取り組みの数については、再掲を含む。

【県の施策の方向性】

- (1) 交流(観光)拡大：魅力ある地域資源の発掘・活用等の推進、体験交流施設等の利活用による都市農村交流の推進 等
- (2) 産業振興：スマート工業団地の整備の促進、6次産業化等による地域農産物の利活用・販路の拡大 等
- (3) 定住促進：やまなし暮らし支援センターによる移住情報の発信、滞在型市民農園の活用等による移住・定住の促進 等
- (4) 基盤整備：社会資本整備重点計画の施策・事業による基盤整備 等

2 地域の基礎的データ

人口減少の進展や事業所数の減少など沿線地域が抱える課題等を明らかにするデータを掲載

資料編にはその他、中部横断道沿線地域活性化ビジョンの策定経過等を記載